

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ひだまりの家 )

事業所番号	0670101112		
法人名	社会福祉法人 やまがた市民福祉会		
事業所名	グループホームとかみ楽生苑		
所在地	山形市富神前11番地		
自己評価作成日	令和1年 7月 17日	開設年月日	平成14年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者として入居者をとらえるのではなく、一人の人間、人生の先輩として敬い、一人ひとりが潤いのある暮らしを営んでいただけるように日々の暮らしを大切にしながらお手伝いしている。  
認知症介護の知識や学びを深めるために学習会を毎月開催しているほか、外部研修にも参加しており、また、地域住民との交流機会を大切にし、認知症への理解を深めて頂けるように介護者サロンも開催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3-10		
訪問調査日	令和元年 7月 29日	評価結果決定日	令和 元年 8月 19日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年度、事業計画に関する職員研修会を開催し理念を確認し合い、それら理念に添った年間目標を設定して実践に繋げている。また、運営理念やケアの手引き等を事務室内に掲示し職員が日常的に確認できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内にある地域交流施設ふれあいセンターへ定期的に出向き、入居者と地域住民が触れ合う機会を設けている。地元のお祭りにも出向き、文化祭にも作品を出品している。毎年、法人として開催している祭りには地域住民も多数来場し、事業所及び入居者と交流を深めている機会となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「西山形地区介護者サロン」を毎月1回、定期的に開催し、今年度は100回記念開催も予定している。これからも専門職として、認知症を理解していただくための取り組みを続けていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所の運営状況や取組、生活の状況等を報告し、委員からの意見を参考しながら運営に結び付けている。広くご家族へも呼びかけ、運営に参加できるように取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市介護相談員の定期的な受け入れ、地域支援包括センターと共同での取り組み等、日頃から市関連機関、関係者と協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針に沿って、職員研修会や楽生苑学習会で身体拘束に関する学習を行い、職員は身体拘束があってはならないことを理解し実践している。入居者が自由に出入り出来るよう開設当初から玄関の鍵は掛けないようにしている。安全面に配慮し、外に出る気配を見逃さない為の見守りとその後の付き添い、併設する特養ホームやふれあいセンターとも連携している。併せて、山形市の行方不明者事前登録制度も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修会等で虐待防止について学習し、入居者の権利擁護、人権尊重を常に心がけたケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会で学ぶ機会を持ち、必要に応じて話し合いながら活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得いただけるよう十分に説明し、不安や不明な点についてはその都度しっかりと対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	オンブズマンの投書箱を設置し、月に一度相談日を設けている。また、市介護相談員を受け入れ、入居者が意見を聞いてもらえるようにしている。意見要望については家族面談の際にも伺うようにしており、改善点があれば見直ししている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見や提案を聞いてもらえる状態にある。また、月に一度の会議や年に一度の職員ヒヤリングで聞く機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	臨時職員への資格手当の他、介護職員処遇改善手当も対象となる職員へ支給している。職員研修会も定期的に行われ職員が自己研鑽できる環境を整備している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に内外の研修への参加を勧めている。新規採用職員研修も制度化しており、代表者による面談を通して習熟度を把握する仕組みとなっている。職能基準書を用い、各職員と管理者、代表者が力量を把握している。また、各資格の取得についても積極的に推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加盟し、地区ブロック連絡協議会の会議や研修等に参加している。職員が参加し、交流を図りながらサービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人から話しを伺う機会を持ち、困っていることや不安なこと、要望などをよく聴くようにしている。職員間で情報を共有し、安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接から入居まで不安なことや要望をご家族からお聞きし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込の時点でご家族に入居後の暮らし作りができるだけ参加いただくよう話をしている。ご本人の想いを伺いながら、サービス利用状況を確認し、必要に応じて他の在宅サービスやケアマネに相談をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活で、入居者のできることを探り、役割を持って過ごして頂くことで暮らしを共にする関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ケース記録を郵送し、日々の生活を少しでも知って頂くようにしている。また、ご家族が来苑されたときや家族面談時も生活の様子をお伝えしている。家族参加の行事として、食事会や障子貼り、掃除等をして頂いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方や知人の方がいらしたときは、ゆっくりと過ごして頂けるよう努めている。日頃の話題の中からのなじみの場所、思い出の場所にドライブに出かけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの思いを尊重できるように支援している。入居者が孤立しないよう、個々の思いを伝える橋渡しを心がけている。日常的に入居者同士が互いに興味を持てるよう働きかけている。また、活動や誕生会を通して入居者同士がなじみの関係を築けるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設している特養に入居されるケースも多く、機会を観て訪問するようにしている。入院し退居される場合はお見舞いやご家族への様子伺いなどを行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別性を重視し、一人ひとりの話を良く聴きながら思いに添えるようなケアプランを作成し実践している。アセスメントにはセンター方式シートを活用し、本人主体の視点から希望や不安を把握するように努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接や家族面談、日常の会話からできるだけ多くの情報を収集し、記録に残しながら職員全員で共有、把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や言動を記録に残し、状況を把握すると共に心身の小さな変化も逃さないように努めている。センター方式シートのできることで、できないこと、できそうなことを把握し、ケアプランに反映している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、意思の所見等も含め、定期的にケース検討会議を開催している。会議後、家族面談を行い意見や要望を参考にしながらケアプラン作成をしている。定期的にモニタリングをし、新たな介護計画作成に活かしている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアの実践を記録に残しているほか、申し送りノートを活用し、入居者一人ひとりの状況を職員間で共有し、ケアの実践や計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	併設施設での催し物に参加している。ハーモニカ演奏やセラピー犬などのボランティアを受け入れている。		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	入居時に本人、家族の希望を確認し、主治医を設定している。多くの入居者は隣接する診療所をかかりつけ医とし、日常的に体調管理できる体制となっている。希望に応じて、歯科医訪問診療と精神科の往診も実施している。		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	毎日、健康観察を行い、異常があれば併設施設の看護師へ報告、常に相談できるようになっている。併設看護師の巡回は毎日あり、急なけがや体調不良があればその都度連絡し、24時間体制で必要な医療的支援を受けることができる。		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	病院へこれまでの情報を提供している。入退院時には病院関係者との情報交換、共有を行っている。		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	本人、家族の希望を聞き、入居時に管理者から説明し方針を伝えている。家族とのカンファレンス時にも、本人の状態が変わった場合の対応について話し合いを行っている。共生苑の看取りの学習会に参加している。		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	毎年、赤十字社等の外部講師による心肺蘇生法やAED操作方法の訓練を行っている。また、様々な体調急変時にも対応できるよう、併設施設の看護師からアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回避難訓練を実施し、避難場所や誘導方法を確認している。西山形地区と防災協定を結んでおり、協力体制を構築している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に開催している会議において、接遇の状況を確認し合い改善目標を掲げるようにしている。「接遇チェックリスト」を作成し自己評価すると共に、リストに基づいたケアに努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いすることのないように配慮し、自己決定ができるような言葉かけと働きかけを行っている。入居者の個々のペースに合わせている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活日課はあるが、その日の天気や入居者の状況に合わせて臨機応変に支援できるようにしている。個々の生活リズム作りに配慮しながら、その人らしい暮らしを支援している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔や整髪、ひげ剃り、爪切り、衣類の汚れなど清潔感に配慮し、本人の希望を伺いながら支援している。外出時には、天候にあった服装となるよう声かけを行いながら支援している。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲で調理等準備から食事、片付けまでを毎食一緒に行っている。その時々で献立を変えるなど入居者の思いを尊重し、楽しい時間となるよう支援している。食べやすい食事の形態や苦手な食べ物の把握に努め、一人ひとりに合った食事の提供を心がけている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限のある方については、量を調整しながらお出ししている。十分に摂取できない入居者については、食事の形態を嚥下食等へ変更したり、看護師や医師に相談し指示を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科衛生士や医師の口腔ケアを受けている。航空状態がどのようになっているのか報告を受け、ケアの指導も受けている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用し個々の排泄パターンの把握に努めている。トイレでの排泄ができるよう声かけや誘導、お手伝いを行っている。			
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳製品をお出している。また、水分を多めに摂って頂いたり、座りながらできる体操を行っている。お通じが滞りがちな方に関しては、医師に相談し下剤を処方してもらい、調整している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は設定せず、一人ひとりの希望や気分、タイミングに合わせて入浴の声をおかけしている。入浴をお断りする方に対しては、誘い方を職員間で検討し、成功例を共有し実施している。ゆず湯や菖蒲湯、りんご湯など季節感ある入浴を楽しんで頂ける工夫を行っている。			
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動や体操を取り入れることで、夜間ぐっすりと休めるような生活リズム作りをしている。日中は個々の状況に応じて休息して頂いている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書を保管し、職員全員が目的や副作用を理解している。服薬の支援と症状の観察を行い、必要に応じて医師や看護師に相談している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴を把握した上で、得意なことを職員全員で共有し、役割や楽しみ事に生かせるように支援している。日常生活の中で歌や園芸、習字、塗り絵など趣味や得意なことに取り組める機会を作り、張り合いや喜び、話題の提供にもつながっている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日常生活の中で散歩や買い物、ドライブに出かけられる状況である。本人の希望に添った外出の支援に努め、季節を感じて頂けるような外出行事も企画している。ご家族と一緒に外出される方に関しては、外出先での様子などをお聞きしている。</p>			
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>事務所の金庫でお預かりし、買い物支援では希望に応じて使えるようにしている。自己管理ができる方やご家族の同意を得て現金を所持している方がいる。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>いつでも電話ができるように支援している。毎年、ご家族宛に年賀状や暑中見舞いを書いて頂いている。書くことが難しい方もいるので、無理な場合は職員が代筆することもある。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に合わせた装飾や花々を飾り、季節感と生活感を感じて頂けるような工夫をしている。ソファやテーブルの配置など居心地良く過ごせるよう、職員間で話し合い実施している。また、職員が出す音や動きにも気を付けるようにしている。</p>			
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファやベンチを配置し、一人でゆっくり過ごす時間や入居者同士が交流できるよう和室もしつらえてあり、ゆっくりと過ごして頂ける環境となっている。</p>			

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居当初に本人、家族と相談し馴染みのあるものを持ってきて頂くようにお勧めしている。			
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、入居者が行動しやすいようになっている。状況に応じて分かりやすいような案内表示を入居者の視野に入るよう設置している。			